

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月20日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872100839		
法人名	医療法人社団 ハート		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 きんもくせい	ユニット名	1F
所在地	〒312-0062 茨城県ひたちなか市高場1673-34		
自己評価作成日	平成27年9月15日	評価結果 市町村受理日	平成28年5月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0872100839-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0872100839-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年11月18日	評価機関 決 済 日	平成28年4月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>午前中のホーム周辺散歩や軽い体操、午後の買い物や趣味活動、ゴム体操、また外部講師による週一回の歌の会、体操の会、月2回の音楽療法を実施して上下肢筋力の低下防止・気分転換に努めている。さらに月1回お茶の先生をお招きして皆様にお茶をたてて頂き芸術に触れる機会も作っている。</p> <p>週末にはドライブに行ったり、車で普段行けない場所に行き買い物を楽しんだりしている。職員は、入居者様と一緒に朝の掃除をしたり、食事の場面では準備、盛り付け、片付けなど一人一人の好きな事やできる事を見極めながら一方的なケアにならないよう心掛けている。入居者同士の会「望みの会」では食べ物や行きたい場所など個々の思いを伝えて合い、共に生活することにより支え合う関係作りに力を入れている。</p> <p>今年度も、地域の中学生の介護体験学習や親子のボランティアの受け入れに積極的に取り組み、入居者様との交流も深めることができた。五感を感じる空間作り、安心して生活できる環境作りを考え、スタッフ一同、住み慣れた地域と共にその人らしさを大切に「ゆっくり、ゆったり心地よく一人一人に寄り添う介護」を実践している。</p> <p>また医療面ではクリニックに併設されているので、急な体調の変化にも対応でき、安心して生活して頂ける。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>運営母体の協力医療機関が同一敷地内にあり、月2回の受診や緊急時には24時間連携体制を築いており、利用者や家族等の安心につながっている。</p> <p>消防署立ち会いのもと、年2回総合避難訓練を実施するほか、夜間の火災や地震を想定した避難訓練を毎月実施している。</p> <p>ハーモニカ演奏や手品などのボランティアを受け入れているほか、外部から講師を招いて月1回のお茶会や月2回の音楽療法を実施して芸術に触れる機会を設けている。</p> <p>住み慣れた地域と一緒にその人らしい生活が送れるよう、理念に掲げる「ゆっくり、ゆったり、心地よく一人ひとりに寄り添う介護」を目指して全職員で取り組んでいる。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に介護の現場やケース検討会などで理念についての話し合いをしている。また、理念を書いた携帯用のカードを全員が持って、理念の実践に向けて取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関や各フロアーに掲示している。 職員は理念を書いたカードを携帯して理念の一文にある「ゆっくり、ゆったり、心地よく一人ひとりに寄り添う介護」の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(夏祭り、運動会等)で交流の場を作ったり、近所での買い物、ホーム周辺の散歩や清掃などで地域の方との交流が図れるよう努めている。	利用者は職員と一緒に近隣の散歩や食材の買い物に出かけ、挨拶を交わすほか、地域の夏祭りや運動会の見学に行くなど、地域住民と交流している。 ハーモニカ演奏や手品などのボランティアを受け入れているほか、月2回音楽療法の先生を招き、利用者の上下筋力の低下防止や気分転換になっている。 中学生や高校生の職場体験のほか、夏休みには親子のボランティア体験を受け入れ、利用者は地域住民とふれ合う機会も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症地域サポート相談員養成研修」3名「キャラバン・メイト養成研修」2名が資格取得した。今後は、認知症相談窓口として住み慣れた地域での生活を継続できるなど、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けアドバイスできるよう努めたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状態やホームでの行事、取組みを報告し意見を聞き具体的な話し合いをしている。その上で理解と支援を得てサービスの向上に取り組んでいる。今年度から、ひたちなか市認知症地域支援推進員が加わりより地域の現状を把握出来るようになっている。	運営推進会議は家族等の代表や包括支援センター職員、自治会長、民生委員などで2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 会議では利用者の入居状況や介護相談員の活動、事業所の行事報告などを行っている。 委員から夏祭りの際に「事業所に神輿が来るようお願いしてはどうか」との意見があり、サービスの向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月利用状況の報告など、地域包括支援センターや市の介護保険担当者と連携を図り、協力関係を築いている。	地域包括支援センター職員は、運営推進会議に毎回出席している。 管理者は月1回程度市担当者を訪問し、利用者の状況を報告したりするほか、電話やファックスで市の情報を得るなど、連携を図って協力関係を築いている。 管理者は地域包括支援センターが主催する、グループホーム懇談会に出席し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、定期的に見直しする機会を会議等で設け、職員全員が理解できるよう努め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 会議や研修会で身体拘束とは何かを正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組む随時職員同士の話し合いの場を持ち意識の共有を図っている。	身体拘束防止に関するマニュアルを作成し、管理者は内部研修を実施して職員は禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を理解している。 玄関にチャイムを設置するとともに、職員の見守りにより日中は玄関を施錠せず、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の会議の中で研修の一環として様々なテーマを取り上げ勉強する機会を持っているが、その中で虐待防止の事も取り入れて学び周知を徹底し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について会議や研修会で学んだり制度について理解し意識の共有を図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際には、利用者や家族等の不安や疑問を解消できるように時間をかけて十分な説明を行い、理解を得られるよう努めている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には毎月の会議「望みの会」やアンケート、家族にはアンケート、意見箱の設置などで意見や要望を聞けるようにしている。また、運営推進会議では両者が意見や要望を外部者へ表せる機会とし、運営に反映させている。また、1ヶ月に1回、市の「介護相談員」が2名来所され入居者様からの相談、気が付いたことなど意見交換記録票で報告している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見、提案などを聞ける環境を作り、可能な限り運営に反映できるように努めている。	管理者は月1回開催する職員会議で、職員の意見や要望を聞くとともに、年1回行う職員の自己評価を基に事業所の改善に努めている。 代表者は常に施設に来て職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、勤務体制で職員の都合を聴くなど、柔軟に対応している。 事業所だけでは解決できない事案は代表者に相談し、必要な電気製品などはすぐに購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員個々の努力や実績、勤務状況を把握して、給与水準、労働時間の把握など、各自が向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修は、研修委員を中心に毎月1回勉強会を実施している。職員には最低年2回の研修を義務づけ、月の会議で随時、伝達講習や意見交換を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	茨城県地域密着型介護サービス協議会主催の会議や地域密着型サービス事業所懇親会に参加し、他ホームの現状や活動内容の確認をしサービスの向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に不安、要望等本人への聞き取りを基にアセスメントを行う。サービス開始時にも本人とゆっくり話す時間を設け傾聴し、不安を軽減し信頼関係を築くよう努めている。また、行動、言動にも関心を持って接するよう努めている。利用者によっては体験入居を利用して頂いている。又、入居の際には、ホームでの最初の食事を家族の方と一緒に摂って頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでには家族がきたんなく話せる雰囲気面で面会し、納得が得られるまで説明し、信頼関係を築けるよう努めている。又、事前に不安、要望、困っていることなど家族への聞き取りを基にアセスメントを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントから「その時」まず求められている支援を見極め必要なサービス内容を確認している。又必要に応じて他のサービス事業所に問い合わせをしたり、連携を持ち柔軟な対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現存能力に応じた役割を持って生活して頂くことで、介護される一方の立場にならない様にしている。（お米とぎ、食材の下ごしらえ・調理、掃除、洗濯たたみなど）また、教えて頂きながら季節の野菜を作り育て、収穫を楽しんでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話などで定期的に本人の近況報告を行っている。職員は、利用者の状況、必要に応じて家族と連絡調整を行い、利用者が安心して過ごせるよう面会、外出の協力を仰いでいる。又誕生日や行事など家族に参加して頂き、職員と一緒に入居者が楽しめる時間を共有して頂けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人への電話連絡、また年賀はがきや手紙、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。週末のドライブや買い物の機会を利用して本人の馴染みの場所へ出掛けたりしている。	正月やお盆に外出や外泊ができるよう、家族等と連絡調整をしたり、週末のドライブの機会を利用して馴染みの店に買い物に出かけているほか、利用者が自宅や知人へお礼の電話をかける際には手伝ったり、手紙や年賀状の代筆をするなど、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の会話や関わり方に関心を持ち、良好な関係作りができるよう食堂の席の配置やレクリエーションでの交流に工夫をしている。また、日々の役割分担において、お互いに支え合う関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、面会を訪れて経過を確認し信頼関係が保てるよう努めている。また、サービス終了後のご家族は、運営推進会議に参加されアドバイスなど頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者同士の話し合いの場である「望みの会」を月に一度行い、意見や希望を聞けるようにしている。職員は日頃の会話の中から利用者ひとり一人の思いや要望、意向を把握し利用者本位のサービス提供に努めている。	職員は基本情報や日々の関わりの中で利用者一人ひとりの思いや希望を推し量り、意向にそった支援ができるよう努めている。 職員は利用者の生活の様子を基に話し合い、介護記録に記載するほか、記録の中に利用者の思いが埋もれないように赤色のマーキングで囲み、全職員で共有できるように工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の書類や利用者本人、家族からの話など、できるだけ多くの情報を集め、これまでの暮らしが把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を通じて生活リズムや一日の過ごし方の把握に努めている。水分量、バイタルサイン、食事摂取量などの身体状態の観察をよく行い、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活や会話の中で、本人の意向、要望や課題を把握する。それについてケース検討会などで利用者や家族、関係者、職員の意見を取り入れ、その人らしく暮らせるような介護計画を作成している。	介護計画は家族等の意見や要望を聴き、管理者や医療関係者、職員で話し合っ利用者にそった介護計画を作成している。 基本的に3ヶ月毎にモニタリングの見直しをしている。 利用者の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中に、実践、結果、気づきなどを記入し、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイケアを併設しており、体操やピアノの日には希望者はデイケア利用者とともに参加し楽しんでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店「コープ」での買い物、イベントの参加などで地域資源を活用し、豊かな暮らしを楽しむことができるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にクリニックを併設しており、24時間いつでも医師と連絡が取れるようになってる。また、他の医療機関に受診時は家族が付き添い、帰所時に状態報告を受けている。	管理者は契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医を聴いているが、運営母体のクリニックが同一敷地内にあり、緊急時の対応や24時間受診が可能となり、利用者の大半がクリニックの医師をかかりつけ医としている。 月2回クリニックを受診し、受診結果は変化があれば家族等に電話などで連絡し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に利用者の変った様子や異常が見られれば併設のデイケアの看護職員にすぐ相談し、受診、看護を受けられる体制作りをしている。状況によっては併設のクリニックを緊急でも受診している。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療が出来るよう、また利用者の負担をできる限り減らせるよう、利用者の疾病や状態の変化、異常などを観察し、早い段階で併設の内科クリニックを通して入退院時には診療情報を授受し、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については早い段階から本人、家族等と話し合いをしている。また併設クリニックと連携を図り、状態の変化に応じての対応、本人、家族との話し合いを随時行い、度々看取りまで行っている。	「重度化した場合における（看取り）指針」を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して書面で同意を得ている。 現在までに7人の看取り介護を経験しており、重度化した場合や終末期のあり方については、早い段階から利用者や家族等、運営母体のクリニックと連携を図りながら支援ができるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の初期対応について、研修に行ったり、勉強会を開くなどして、理解を深めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月行っている避難訓練、年2回行っている消防署員立ち会いでの総合避難訓練を通して、全員が避難の方法を身に付けられるようにしている。地域の自主防災マップで、防災時緊急避難場所、消火栓、防火水槽設置場所の確認をしている。	避難訓練は消防署立ち会いのもと年2回実施するとともに、夜間や地震を想定した自衛避難訓練を毎月実施し、訓練後は訓練内容や課題について話し合い、記録に残して次回の訓練に活かしているが、地域住民の参加を得るまでには至っていない。 災害に備えて飲料水や缶詰、毛布、カンパン、乾電池などを備蓄し、防火管理者が毎月管理するほか、備蓄品リストを作成している。	運営推進会議等で地域住民に避難訓練への参加を働きかけ、災害時の協力体制を築くことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、言葉かけや対応など利用者の誇りやプライバシーに常に配慮している。記録もイニシャルで表記し、事務所にて保管している。	職員は利用者の尊厳やプライバシーを大切にし、常に職員で話し合って利用者の呼び方や言葉遣いに気をつけ、自尊心に配慮してケアに取り組んでいる。 管理者は利用者のトイレ介助の際は必ずドアを閉めるよう指導しているほか、トイレの内側にカーテンを設置するなど、プライバシーを損ねないよう取り組んでいる。 年1回プライバシー保護に関する内部研修を実施するとともに、個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、常に利用者が思いや希望を表したり、自己決定できるよう、一人ひとりにゆっくりと時間をかけ働きかけを行うよう配慮している。自分の意思や思いをなかなか口に出せない方には、選択肢をいくつか提供し選んでいただく等の工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が主体となって、その人らしい生活ができるよう場面作りを行うなど、柔軟な支援をしている。曜日毎にレクリエーションはある程度決まっているが利用者の希望、自己決定を尊重している。又ドライブや散歩など希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りのアクセサリや洋服を一緒に選んで着て頂いている。また使い慣れた化粧品や気に入ったものを一緒に選び購入できる。個人の希望に応じて、出張理容サービスを利用することもあれば、馴染みの美容室を利用することもある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の食事は栄養士の献立に沿って、職員が調理をしている。週末は、利用者の希望を取り入れながら、利用者と職員で献立を考え、買い物に出かけ、それぞれの能力に応じ、職員と一緒に調理、配膳、後片付けを行っている。	職員は利用者と一緒に食卓を囲んで同じ食事を摂り、利用者の食事介助をしながら見守りや声かけをしている。 利用者は職員と一緒に下善やテーブル拭き、食器洗拭き、盛り付けなど、利用者の能力に応じた役割を担っている。 誕生会や節分祭、雛祭り、七夕祭り、クリスマス会など季節毎の行事食を提供しているほか、お節料理や十五夜などの料理は利用者と職員で作り、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平日の食事は栄養士による献立で、栄養バランスに配慮している。食事や水分摂取量を毎回記録し、一日を通して確保できたか確認している。	/	
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の力を引き出しながら口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。毎食後の口腔ケアの声掛け、歯間ブラシや洗口液の使用、夜間の義歯の消毒などを行っている。	/	
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々、排尿、排便のチェックを行い排泄の間隔、パターンの把握に努めている。必要に応じて、外出前、食後などにもトイレの声かけ・誘導を行い、排泄の失敗軽減に努めている。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して個人のリズムに合わせてトイレ誘導し、大半の利用者がトイレでの排泄ができています。 夜間はおむつを使用している利用者でも昼間はリハビリパンツを使用し、おむつの使用が軽減できるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を中心とした予防を心掛けている。野菜や乳製品、繊維質の食物を多く摂るよう工夫し、水分も摂れるよう嗜好に合わせて提供している。また、施設周辺の散歩やホール内の歩行を勧めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調や希望時間に合わせてゆっくりと入浴を行えるように支援をする。また、花や果物を浮かべて季節や香りを楽しむ工夫をしている。	入浴は基本的に週2回から3回午後としているが、利用者の体調や希望時間に合わせて対応している。管理者は自宅から薔薇の花を持ってきて薔薇湯にしたり、柚子湯を取り入れ、入浴が楽しめるよう支援している。 安心して入浴ができるよう、シャワー椅子などを用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を充実させ積極的に参加してもらい生活のリズムを整えられるよう努めている。それぞれの体調や希望に応じて飲み物を用意したり、エアコンを利用してゆっくり休息がとれるような支援をしている。眠れない時には、温かい飲み物を勧めたり、ゆっくり話を聞くなどして、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬について理解し、医師の指示のもとに服薬支援している。(外用薬についても同様)特に、内服薬の変更、追加があった際には、心身状態や症状の変化などの観察、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の楽しみを見つけ、意欲を引き出すような支援をする。一人ひとりの生活歴や力を活かし、洗濯たたみなど、役割をもって生活できるよう支援している。また、車で買い物や外出をして気分転換の支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には毎日周辺の散歩に出掛けられるよう声掛けを行っている。希望があれば買い物や食事へ職員と共に行けるようにしている。一緒に買い物に出かけたり、普段、出掛けられないような場所には、家族と連絡調整を行い、外出の援助を行っている。	利用者は天気の良い日には事業所周辺の散歩にでかけ、季節を感じながら地域住民と会話を交わすなどして気分転換を図っている。 管理者は利用者の希望を聴いて年間行事計画を立て、毎月1回程度買い物やドライブ、海浜公園などに出かけるほか、家族等との交流会を兼ねた遠足に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望や能力に応じて金銭管理を支援している。ホームでのヤクルト販売や、コープでの買い物時に本人が支払いできるよう支援している。ホームでお預かりし、買い物の時に財布をお渡しする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時に、電話を掛けられるよう支援している。番号を職員が押して、本人が直接話せるよう努めている。手紙も、本人と一緒に出しに行くよう努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には行事の写真、新聞、利用者の作品（習字、俳句、クラフト作品）を展示し、明るく楽しい空間になるよう心掛けている。玄関やホールには、季節のお花や畑で収穫した野菜などをバスケットに入れ季節感や清潔感を感じられるよう配慮している。	居間兼食堂は広く明るい空間となっており、写真や観葉植物、季節の花を飾り、温もりが感じられる空間となっている。 居間の一角に和室を設けて冬は炬燵を設置し、利用者は寛いだり、洗濯物をたたんだりしている。 廊下の壁には行事の写真や利用者の習字作品などが飾ってあり、楽しい空間になるよう工夫している。 居間やトイレ、浴室などはいずれも清潔に保たれ、利用者が気持ち良く過ごせるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外の場所でも、日当たりのよい窓際にベンチを置き、新聞を読んだり庭の花を眺めたり、一人でも寛げる空間を設けている。和室に腰を掛けて、気の合った利用者同士思い思いに過ごせるよう居場所作りに工夫している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた家具を置いたり、家族との写真や絵を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。またエアコンを使用し温度調整をしながら快適に過ごせるよう心掛けている。	管理者は契約時に馴染みの品物を持参して貰えるよう家族等に説明している。居室はエアコンやベッド、整理箆筒、カーテンなどが備えられている。利用者は家族等と相談して、家族の写真や位牌、テレビなど思い思いの物品を自由に持ち込み、利用者好みの居室作りをしている。居室の入り口に利用者の好みの暖簾を掛け、自分の部屋の日印としている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には、ホールやトイレに手すりを設置し、「歩く」「立てる」など、出来ることを安全に継続して自立した生活が送れるよう工夫している。また、居室のドアに一人ひとりの好みの暖簾を掛けて、自分の居室がわかるよう工夫している。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 きんもくせい

作成日 平成28年4月28日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		避難訓練を実施しているが、地域住民の参加を得るまでには至っていない。	運営推進会議等で地域住民に避難訓練への参加を働きかけ災害時の協力体制を築くことができる。	運営推進会議で、避難訓練を実施する	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。